

5 果樹主要害虫チャバネアオカメムシの発生動向

はじめに

兵庫県では近年、チャバネアオカメムシの果樹園への飛来が増加傾向にあり、その発生を予測するため、集合フェロモントラップを加西市と朝来市に設置している。3カ年のチャバネアオカメムシの発生動向と予察について紹介する。

内容

(1) フェロモントラップによる3カ年の発生状況

農業技術センター（加西市）にチャバネアオカメムシ用フェロモントラップ（信越化学製）を2002～2004年の3カ年、4～11月の間に設置し（2002年の開始は5月14日）、チャバネアオカメムシの誘殺状況を調査した。

2002年と2004年は越冬成虫の活動開始期である5月の誘殺数が多く、また新成虫の発生時期である6月下旬～8月も誘殺数は多い。これに比べ2003年は年間をとおして誘殺数は少なかった。県南部の普及センターへの聞き取り調査では2002・2004年はモモ・カキ等の果樹で被害が多く、2003年は被害がほとんど無かった。

(2) フェロモントラップと予察灯の誘殺数比較

農業技術センター（加西市）、北部農技センター（朝来市）に設置したフェロモントラップと予察灯（60W白熱灯）の誘殺状況の比較を行った。調査時期は2004年4～11月とした。

農業技術センター（加西市）のフェロモントラップへの初飛来は4月19日、フェロモントラップ、予察灯ともに越冬成虫の活動開始期の5月中旬と新成

虫の活動期の6月下旬～8月にピークがある二山型の発生を認めた。しかし、予察灯の誘殺数はフェロモントラップに比べ総誘殺数で1/40と少なかった。北部農技センター（朝来市）のフェロモントラップへの初飛来は4月19日と加西市と同じであった。5月の誘殺数はフェロモントラップ、予察灯ともに少なかった。また、フェロモントラップ、予察灯とも6月5半旬～9月4半旬の一山型の発生で、ほぼ一致していた。

成果の利用（発生量と時期予測）

年度ごとの発生量予測は春のヒノキ花粉飛散量の2カ年比較で行う方法がある。また、針葉樹からの離脱時期を知る方法としてはヒノキきゅう果における口針鞘調査があるが、実際の虫密度を素早く確認する方法としてはフェロモントラップの誘殺数が有効である。

チャバネアオカメムシは針葉樹のきゅう果を餌として好み、普通、年間通して針葉樹林に棲息する。年次ごとの越冬量の多少は好適な餌場の針葉樹のきゅう果が近くにない落葉広葉樹地域に位置する農業技術センター（加西市）の5月の誘殺数で把握する。新成虫の果樹園への飛来の多少は好適な餌場の針葉樹地域に位置する北部農技センター（朝来市）で6月以降の誘殺数の多少を比較検討することで、精度の高い予察が可能であることが確認された。

本年も今回紹介した方法により発生予察情報を提供していく。

山下賢一（農業技セ・病害虫防除部）

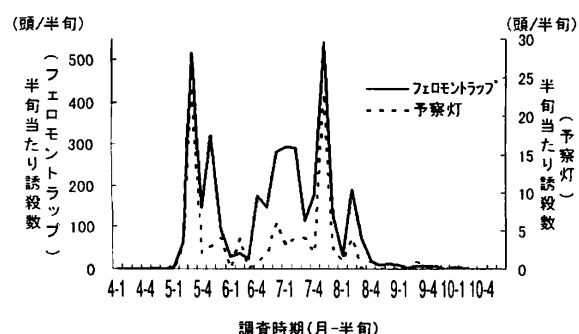


図1 チャバネアオカメムシ誘殺数の推移（2004年 加西市）

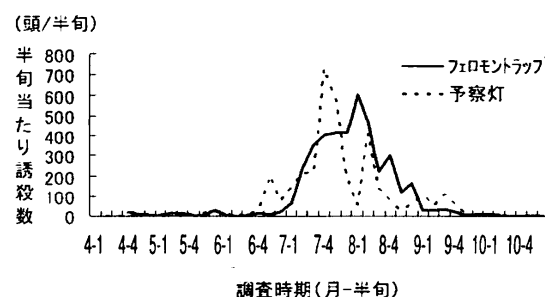


図2 チャバネアオカメムシ誘殺数の推移（2004年 朝来市）